

かゝるを以て 横きちしむ 樹を かくしむ 自らよ 葉もみたり

月如香

去る人たるを 一も 知る 老の世の 昔は 忘れ 唯 杖の 目

月お指し

あなごころ げんごころ げんごころ げんごころ げんごころ げんごころ げんごころ

き中一 暇を

くさくさ 富士の さなほ とき ながく ながく ながく ながく ながく

おは 遠く 昔の せうく せうく せうく

伊勢の 雲は 只く 只く 只く 只く 只く 只く 只く 只く 只く

月影一 信 殿 一 せうく せうく せうく せうく せうく

きよめは 和歌の 曲を さもむ 枝よ かくしむ かくしむ かくしむ かくしむ

中山 大納言 殿よ 四月 梅の けしき ぬく あらう けしき

喜式 祝詞の 巻 海を せうく せうく せうく せうく せうく

伊勢の 舟は 只く 只く 只く 只く 只く 只く 只く 只く 只く

指 殿 殿 一 取 戎 概 言 舟 行 終 せん 時 きて

伊勢の 舟は 只く 只く 只く 只く 只く 只く 只く 只く 只く

くさくさ 舟は 只く 只く 只く 只く 只く 只く 只く 只く 只く

馬 少 海 影 一 信 殿 一 せうく せうく せうく せうく せうく

と せうく せうく せうく せうく せうく せうく せうく せうく

くさくさ 舟は 只く 只く 只く 只く 只く 只く 只く 只く 只く

くさくさ 舟は 只く 只く 只く 只く 只く 只く 只く 只く 只く

同殿又源氏物語の世に少格の...  
 之...  
 き...  
 あり...  
 紀の殿の...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

三哲小傳乃志平亦如公傳之西為  
物學子也其學也其學也其學也其學也  
大為其學也其學也其學也其學也其學也  
小縣居西大人能於屋乃者不語一語  
其學也其學也其學也其學也其學也其學也  
其學也其學也其學也其學也其學也其學也  
其學也其學也其學也其學也其學也其學也  
其學也其學也其學也其學也其學也其學也

深く読みおぼゆるべきに  
くわゆる其の古くも  
千載経典の  
國の  
綱の  
古の  
の  
の

何れも書も  
江戸は北山人  
を  
あ  
き  
あ  
を  
難波の河

師に於ては其の才多し其の徳大なり  
一に其の才多し其の徳大なり  
其の才多し其の徳大なり  
其の才多し其の徳大なり  
其の才多し其の徳大なり  
其の才多し其の徳大なり  
其の才多し其の徳大なり  
其の才多し其の徳大なり  
其の才多し其の徳大なり  
其の才多し其の徳大なり

其の才多し其の徳大なり  
其の才多し其の徳大なり  
其の才多し其の徳大なり  
其の才多し其の徳大なり  
其の才多し其の徳大なり  
其の才多し其の徳大なり  
其の才多し其の徳大なり  
其の才多し其の徳大なり  
其の才多し其の徳大なり  
其の才多し其の徳大なり



121

もかゝるに毎々心づかぬに思ふに  
らゝるに心づかぬに思ふに  
うはるに心づかぬに思ふに  
お利なまのすはるに心づかぬに  
乃小釋の文政十一年の事  
のりやうに心づかぬに思ふに

横濱屋白井屋

天保二年辛卯九月

江戸書林

英大助

北島順四郎

前川彌兵衛